

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：合同会社ローカルSDクリエイション

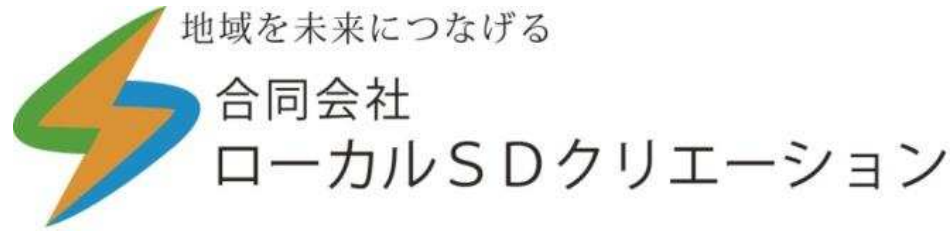
活動地域：福井県丹南地域

活動におけるテーマ

『里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築』

活動団体および活動地域の紹介

活動団体：



設立：2020年4月

企業理念：自然環境を基軸に地域の資源を発掘・創造・活用し地域の持続的発展（Local sustainability development）の創造を目指す

地域の現状と課題

多様な地域資源



里地里山・里海



環境に配慮した米



コウノトリ



交流体験を行う団体



農家民泊



2023年度末
北陸新幹線敦賀延伸

福井県を訪れる観光客のうち
自然目的は第3位！（R2年度）



観光需要を活用し、都市住民との
交流による里地里山・里海の保全
体験を活性化するチャンス！

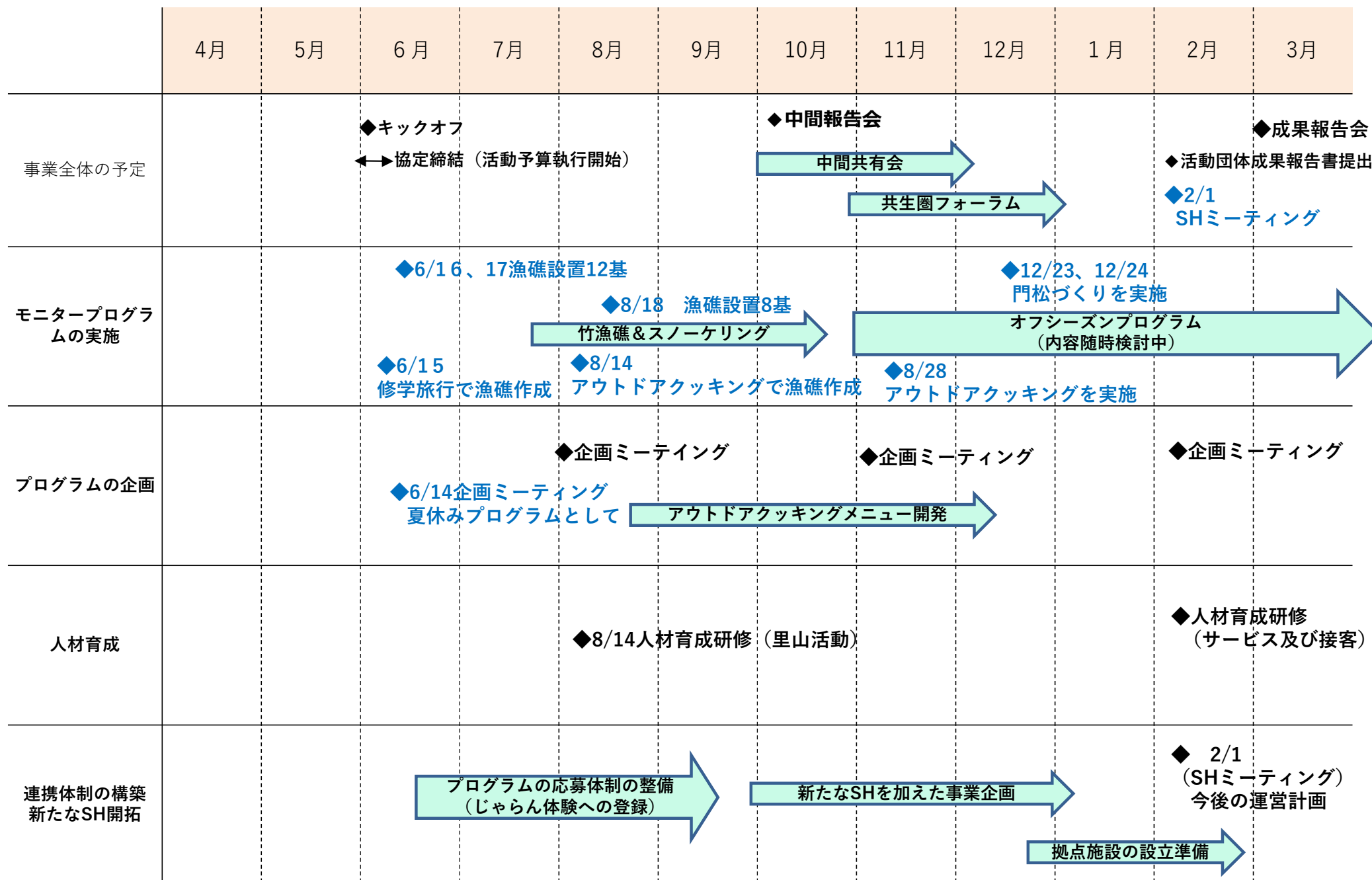
地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

活動テーマ: 里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築 (活動2年目)

地域の自然を基盤に農林水産業と人と人が絆で結ばれた経済循環を構築することで里山・里海を元気に!



年間スケジュール



今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「新たなプログラムの企画・運営」

【活動内容】

1. アウトドアクッキング
(竹で炊飯、ピザ、ホイル焼き等)
2. 教育旅行の受け入れ
教育旅行で竹漁礁づくり
3. 門松づくり体験
4. ランプシェードづくり

【成果や気づき】

- 体験プログラムの数が増えた
- 人材育成として担当できる人が増えた。

【活動の様子】



石窯ピザ体験



竹で炊飯体験



竹ランプシェードづくり

取組②「受け入れ態勢の整備」

【活動内容】

1. アウトドアクッキング石窯整備
(熱効率の向上と受入態勢整備)
2. じゃらの予約体制整備
(広範囲からの応募体制整備)

【成果や気づき】

- 通年にわたり利用できる設備ができた。
- 顧客管理やニーズ、価格設定をしやすくなった。

【活動の様子】



石窯の整備

じゃらによる応募開始

取組③「情報発信体制の整備」

【活動内容】

1. SNSを用いた (Facebook) ポータルサイトの開設 (EPO中部の支援)

【成果や気づき】

- 体験プログラムや活動の様子がわかるサイトの運営は重要。

【活動の様子 (写真など)】

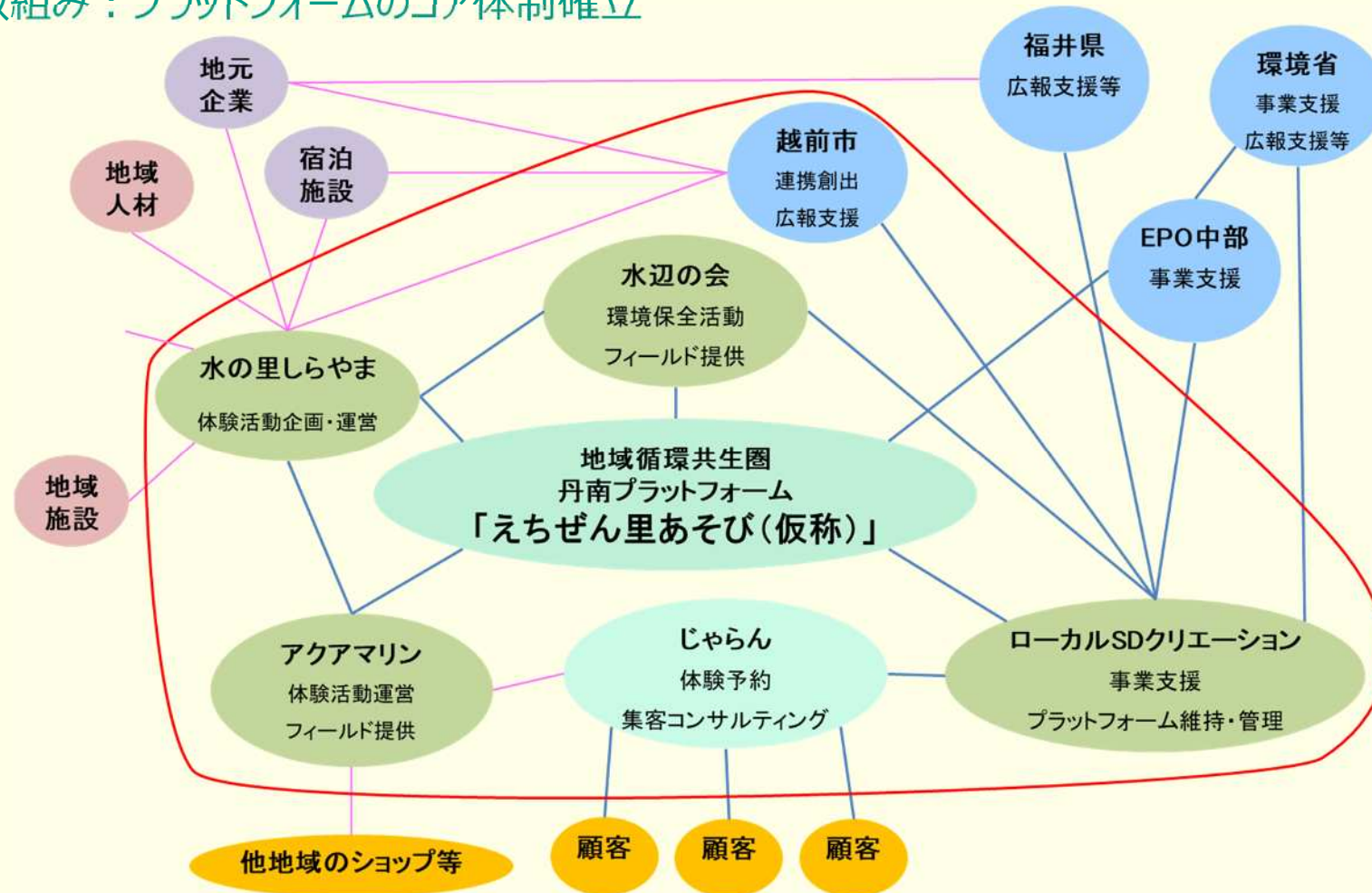


FBグループ しらやまのあそび

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

- 優先的取組み：プラットフォームのコア体制確立



【地域プラットフォームの変化】

- プラットフォームのコア体制が確立したことで企画や事業の実施が具体化した。
- 大手の予約サイトの利用により顧客のアクセスが幅広くなった。
- 現時点における今後の課題や対策などの議論が進んだ（2次交通の確保や地域ブランディングの強化など）。

プラットフォーム形成のポイント

【仲間を探す】

連携主体を増やすための労力は多く、きっかけ作りなどに時間が必要、まずは小さなコアとなる活動団体設定とプラットフォームを確実に作り上げる。

【地域のビジョンを描く】

地域内と地域外のニーズや価値観の違いを認識してもらう。

【体制を整える】

活動団体のスタッフになるべく多く参加してもらい、運営の方法を覚えてもらう。

【事業を考える・生み出す】

地域資源の価値や魅力については、まだ十分に認識されていないため、情報収集と提供を頻繁に行う。トライ&エラーで事業のブラッシュアップを行う。

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

取組全体を通しての成果

◆ 環境

- 荒廃した竹林をはじめとした里山の環境向上
- 水産資源の産卵床や隠れ家の創出

◆ 経済

- 収益化による持続的活動の創出への意識向上
- 地域資源を活用した新たな体験プログラムの運営
- 地域の経済循環のニーズを把握することができた。
- 観光協会とのつながり創出

◆ 社会

- 里山資源のワイズユース、流域連携保全構築海洋生態系の保全
- 自然環境教育の普及・啓発
- 体験プログラムによる地域資源の利用価値の再認識
- 多様な顧客からのプログラムへのアクセスと応募体制構築

取組全体の課題

◆ 環境

- 活動ノウハウと人材育成
- 活動による効果の専門的検証

◆ 経済

- CFなどを活用した多角的な資金調達
- 環境活動の収益化への抵抗感、
- 収益化に見合ったサービスの提供

◆ 社会

- 情報発信などの充実
- SH内間の自然再生への価値観の差
- 地域の自然環境の魅力の周知や農産物のブランディング強化 (選んでもらえる地域になる)

◆ その他

- 県外からの来訪者に対しての2次交通の提供
- 宿泊施設などを備えた拠点施設の整備

活動における今後の展望

【今後の展望】

- 情報発信の充実（事業を考える）
FB以外にもInstagram等を用いた情報発信サイトの運営、活動のPRや地域のブランド力強化
- 金融機関との連携（仲間を探す）
地域の自然資源や農林業資源を活用し起業や創業を目指すメンバーの発掘と支援、CFなど多面的な資金調達方法の模索
- 拠点施設の整備（体制を整える）
ショップ的運営の拠点施設を設けることでアルベルゴ・ディフーズやオスピタリタ・ディフーズに似た（分散型観光サービス）を提供できる仕組みの構築

【2030年には・・・】

丹南地域の自然を基盤に農林水産業と人と人が絆で結ばれた経済循環を構築することで元気な里山・里海

地域の自然環境を活用した保全・交流体験活動を連携



自立的資金調達で持続的な環境活動の循環

ご清聴ありがとうございました。